

…主イエスのまなざしと出会う…  
神さまに、隣人に、そして社会に仕える



# 会報

発行所:日本福音ルーテル教会女性会連盟  
〒169-0072東京都新宿区大久保1-14-14  
TEL/FAX:03-3207-2340  
Web:https://www.jelc-w.org  
E-mail:jelc-w@big.or.jp  
発行人:八木 久美・編集人:廣瀬美由紀

2023.10.31  
167号  
25期5号

## JELCW ニュースレター

Japan Evangelical Lutheran Church Women

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい ローマの信徒への手紙12章15節

### 巻頭言

## 「沈黙の声」

日本福音ルーテル宮崎・鹿児島教会 牧師 富島 裕史



デンマーク牧場福祉会まきばの家で行われた講演会に出席したことがあります。講師は、ラルシュかなの家のコミュニティリーダーの佐藤言さんでした。ラルシュコミュニティは知的障がいを持つ人と持たない人が、共に生きるコミュニティです。

ジャン・バニエにより1964年に設立され、150のコミュニティからなる国際的なネットワークで、日本では静岡の「ラルシュかなの家」だけです。佐藤さんは「かなの家」の使命は、知的障がいのある人の賜物を伝えることだと語っておられました。また2016年7月26日に起こった相模原障がい者施設殺傷事件に触れられ、犯人の中にある優生思想についても言及されました。犯人は、障がい者はいなくなればよいという趣旨の発言を繰り返していたのです。

このとき思い出したのが、NHK文化福祉番組チーフ・プロデューサーの熊田佳代子さんの言葉でした。「障害の有無や人種などを基準に人に優劣をつけようとする優生思想は、経済力や運動能力などの“生産性”がなければ『生きる価値がない』という考えに結びつきやすい。NHKの福祉番組班では『ハートネットTV』をはじめ、さまざまな番組を放送しているが、取材させていただく方や視聴者の中には、生産性で人間の価値が量られる社会に生きづらさを感じている人たちも多い。障害者や高齢者、経済的に困窮状態にある人だけではなく、病気で思うように働けない人、コミュニケーションが苦手だったり他人と異なる特徴があったりして学校や職場に居づらい人など…。一見“普通”にしている、いつ『役に立たない』と排除されるか不安を抱いている側からすると、今回の事件は他人事ではない。そんな“不気味さ”を訴える声が、いま

も番組に寄せられている。](東洋経済ONLINEより)

さらに佐藤言さんの講演の中で、国際ラルシュ連盟が静岡の「かなの家」で作成した動画がありました。タイトルは「十九の折り鶴」。相模原障害者施設殺傷事件、犯人が当時の衆議院の大島理森議長へ送った手紙と同じ言葉が書かれた紙があります。その手紙が読まれた後、施設で生活されている幸子さんがハサミで切り刻んで、紙を作る材料と混ぜて19枚の折り紙をつくり、亡くなられた方のために19の折り鶴を折ってやまゆり園に届けられたのです。この動画の中には幸子さんが紙を作るシーンがあり、次の言葉が語られます。「なぜ世界は障がいのある人の命を、あまり美しくないと思込んでいるのだろうか。あなたの中のはっきりとしない思込みとは、何ですか。私たちは劣っている存在ですか。あまりにも苦しんでいる存在ですか。幸せになりにくい存在ですか。十分に役に立ってない存在ですか。この思込みをもとに、私たちは19人を死なせた。私たちの伝統によると折り鶴の翼は、天国へと魂を連れてゆく」(今でもYouTubeで見ることができます。)

この言葉は、主イエスの眼差しから聞こえてくる「ことば」のような気がしてなりません。

### プロフィール

1957年熊本市に生まれ、めぐみ幼稚園でキリスト教に触れる。降誕劇で三人の博士の一人をかせいで高熱の中、演じ切る。九州学院高校在学中、健軍教会で洗礼を受ける。日本ルーテル神学大学、神学校卒業後は黒崎教会・直方教会、津田沼教会、九州学院チャプレン、静岡教会音羽町礼拝所・ひかり礼拝所、そして現在の宮崎教会・鹿児島教会に赴任。津田沼教会では教会建築を、九州学院ではチャプレンも経験することができました。